



好評につき今年も開催！

カレンダー掲載写真を募集します

「鉄道風景」部門と「愛が、多すぎる。」部門の2部門を設定

南海電鉄（社長：遠北 光彦）では、2018年4月23日（月）から5月31日（木）まで「2019 南海カレンダー」（本年秋以降販売予定）に掲載する写真を募集します。

好評をいただいた昨年同様、南海電車のある風景をテーマとした「鉄道風景」部門と、当社沿線で住む・訪れる・働く人をテーマとした「愛が、多すぎる。」部門の2部門を設定。プロカメラマンの垂井 俊憲^{たるい としのり}さんを審査員に迎えて選考し、入選した作品はカレンダーに使用するほか、WEBサイトでは撮影者の被写体に対する想いなどを紹介します。

写真を撮るのが好きな方、腕に自信がある方、南海沿線への愛を発信したい方など、皆さまからご応募いただき、「2019 南海カレンダー」を通じて当社沿線の魅力を発信していきます。

詳細は別紙のとおりです。



▲前回実施時の「愛が、多すぎる。」部門採用作品一例



「2018 南海カレンダー」一例▶

1. 募集期間

2018年4月23日（月）～5月31日（木）必着

2. 募集テーマ

(1) 「鉄道風景」部門

ア、募集内容

当社鉄道車両が必ず写っている風景写真 ※横位置の写真に限ります。

イ、募集数

13作品程度

(2) 「愛が、多すぎる。」部門

ア、募集内容

当社沿線を舞台として、人物が必ず写っている風景写真

※写真は縦横位置いずれでも可としますが、縦位置のものを推奨します。

※撮影および応募は、被写体(未成年者の場合は保護者)の許諾がある場合に限ります。

※鉄道車両が写っていても構いません。

イ、募集数

12作品程度

3. 応募方法

(1) ご応募いただく作品をA4サイズの紙にフルカラーで印刷し、「愛が、多すぎる。」WEBサイト (<http://www.ai-nankai.com/>) からダウンロードした応募用紙に必要事項をご記入のうえ、あわせて下記住所へ郵送してください。

(2) 応募要項

応募先	〒556-8503 南海電鉄 営業部「愛が、多すぎる。」事務局 写真募集係 ※住所不要
作品規定	・3,072×2,034 ピクセル以上、JPEG のファイル形式で撮影された写真に限ります。 ・未発表、未公開で、応募者自らが撮影され、著作権を有する作品に限ります。
資格	・作品を販売用カレンダーに使用すること、今後のプロモーション関連の施策に使用することについてご了承ください。 ・お一人さまにつき、ご応募は1回のみ(複数部門・複数作品応募可、ただし1部門5作品まで)とします。 ※複数作品を応募される場合は、作品ごとにクリップなどで紐付けして、応募用紙を添付してください。 ・ご応募は日本国内在住の方に限らせていただきます。 ・未成年者のご応募には、保護者の同意が必要です。入賞の場合は、保護者に同意を確認します。
必要事項	①ご希望の部門名 ②氏名 ③性別 ④年齢 ⑤住所 ⑥電話番号(携帯電話可) ⑦メールアドレス(PC/携帯電話どちらでも可) ⑧作品タイトル ⑨撮影日 ⑩撮影場所(駅名、駅区間、場所名など) ⑪作品・電車・沿線への想い(100字程度)
その他	・入賞者には、事務局から連絡をします。その後、指定期間内に画像データ(JPEG形式)を事務局にご提出いただきます。 ・ご応募いただいた作品の返却はいたしません。 ・作品を使用する際、必要に応じてデザイン及び色調を改変することがあります。 ・立入禁止区域への立入りや他のお客さまに迷惑のかかる撮影はおやめください。 ・ご記入いただいた個人情報は、本企画および「愛が、多すぎる。」プロモーションに関する目的に使用し、他の目的には使用いたしません。

※その他の詳細や注意事項などは、上記「愛が、多すぎる。」WEBサイトをご確認ください。

4. 選考方法

南海電鉄および「フジフォトハウス」所属のプロカメラマン垂井俊憲さんが選考します。

5. 結果発表

2018年6月中に、入賞者の方に電話またはメールでご連絡します。
※選考の過程・結果に関するお問い合わせについては、一切応じかねます。

6. 採用者への賞品

- ・「2019 南海カレンダー」1部
- ・記念品

7. お客さまのお問い合わせ先

南海電鉄 営業部「愛が、多すぎる。」事務局

TEL：06-6644-7155（平日 9：00～17：00）

<ご参考> 審査員プロフィール



垂井 俊憲（たるい としのり）

1950 岡山県久米郡生まれ

1970 日本写真学校卒業

富士フィルムイメージングシステム契約カメラマンとして活動開始

1976 フリーフォトグラファーとなり、フジフォトハウス設立

1992 日本写真家協会（J P S）入会

1995 南海電鉄と撮影契約を結ぶ

2002 「南海沿線 歩き撮りフォトガイドブック」出版

高野山開創1200年ギャラリーにて写真展「山上の聖地高野山」を開催するなど、現在に至るまで、入賞・写真展開催など多数活躍。

以上